

『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他（六訂稿）

（令和 5（2023）年 7 月 17 日（月）現在）

〔目 次〕

（作成、補正経緯）	2
【参考 HP】	4
【関連 HP】	7
I 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』抄録	8
II 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』補遺	14
III CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）併載：小早川欣吾先生 略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯） —』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）の件	15
IV 趙晶氏「論小早川欣吾的東洋法制史研究」の件	16
V 『支那社会経済大辞典』第 1 巻収載の小早川欣吾先生執筆項目の件	17

(作成、補正経緯)

HP 初出: 初稿: 平成 19 (2007) 年 11 月 3 日作成  
改訂稿: 平成 20 (2008) 年 11 月 24 日作成  
再訂稿: 平成 28 (2016) 年 8 月 6 日作成  
三訂稿: 令和 3 (2021) 年 11 月 9 日 (火) 作成  
四訂稿: 令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 作成  
五訂稿: 令和 4 (2022) 年 6 月 30 日 (木) 作成  
六訂稿: 令和 5 (2023) 年 7 月 17 日 (月) 作成

・(初稿) 竹内英治氏とともに、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(平成 8 (1998) 年 6 月 25 日刊) を編集してから、早くも 10 年が過ぎた。初刷が少数であったこともあり、先頃電子版を作成できればと企図したが、残念ながら、時期尚早で流れてしまった。このため、ここに、その全体像の一端を紹介すべく、同書収録論稿目次その他を収載しておくこととした。他日再刷等の実現する日が来ることを期待したい。

[上記再企画の過程では当時お世話になっていた石岡浩先生 (1963~2014.10.3) に大変な御高配を賜った。先生の御早逝は寔に悲しいことであり、ただただ先生の御冥福をお祈りいたしております。(令和 3 年 11 月 9 日追加)]

なお、本 HP 掲載の下記小早川欣吾先生関係各別稿参照。

「小早川欣吾先生略年譜・著作目録」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

「小早川欣吾先生記念メダルによせて—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—」

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

(平成 19 (2007) 年 11 月 3 日初稿作成、令和 3 (2021) 年 11 月 9 日一部補正)

・(改訂稿) 今般、全体にわたって、誤植その他を修正した。

(平成 20 (2008) 年 11 月 24 日改訂稿作成)

・(再訂稿) 今般 CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集 (増補版) 併載: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録 (八訂稿) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十二輯) —』(平成 28 (2016) 年 8 月 1 日刊) を作成したことから、「Ⅲ」を新たに追加した。

(平成 28 (2016) 年 8 月 6 日再訂稿作成)

\* 上記再訂稿作成以後に、趙晶氏 ((当時) 中国政法大学法律古籍整理研究所副教授) 「論小早川欣吾的東洋法制史研究」『法制史研究』第 34 期 (2018 (平成 30) 年 12 月刊) 177~191 頁が公表された。

〈[http://flgj.cupl.edu.cn/\\_local/9/68/58/ECF3D4F427BD6FA6CEECF5B7967\\_E996F37F\\_DA888.pdf#search=%27%E5%B0%8F%E6%97%A9%E5%B7%9D%E6%AC%A3%E5%90%BE++%E8%B6%99%E6%99%B6%27](http://flgj.cupl.edu.cn/_local/9/68/58/ECF3D4F427BD6FA6CEECF5B7967_E996F37F_DA888.pdf#search=%27%E5%B0%8F%E6%97%A9%E5%B7%9D%E6%AC%A3%E5%90%BE++%E8%B6%99%E6%99%B6%27)〉

(趙晶 「法制人物論小早川欣吾的東洋法制史研究 (含中英摘要) 177~191 頁」

〈[http://proj1.sinica.edu.tw/~leghist/pages/data\\_1\\_12.html](http://proj1.sinica.edu.tw/~leghist/pages/data_1_12.html)〉

〈<https://www2.ihp.sinica.edu.tw/publish4.php?TM=5&M=4&C=61>〉

〈<http://flgi.cupl.edu.cn/info/1031/1012.htm>〉 )

・(三訂稿) レイアウトを全面変更し、一、二補正した。

(令和 3 (2021) 年 11 月 9 日 (火) 三訂稿作成)

・(四訂稿) 一、二補正した上で、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯) —』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録。

(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 四訂稿作成)

・(五訂稿) 一、二補正した。

(令和 4 (2022) 年 6 月 30 日 (木) 五訂稿作成)

・(六訂稿) 令和 5 (2023) 年 7 月 7 日西英昭先生から、山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』第 1 卷 (アーカ、奥付では「全八巻の内 第一巻」とある。大雅堂、昭和 19 (1944) 年 12 月 15 日刊。『支那社会経済大辞典』は終戦により第 1 巻のみ刊行されて中断。) 中の小早川欣吾先生執筆「67 項目」について御教示をいただいたので、「V 『支那社会経済大辞典』第 1 巻収載の小早川欣吾先生執筆項目の件」を新設し、追加した。いずれ『小早川欣吾先生東洋法制史論集』に補遺として追加収載できればと考えている。西先生の御厚情に深く感謝いたしております。

(令和 5 (2023) 年 7 月 17 日 (月) 六訂稿作成)

【参考 HP】（令和 5（2022）年 7 月 17 日新設）

\* 法制史学会 HP（平成 14（2002）年 10 月 5 日公開、平成 24（2012）年 4 月 1 日移転）

〈<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

（新） 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

\* 全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・ 「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・ 「法制史学者著作目録選（WEB 版）」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・ 「「法制史コーナー」 所載項目一覧」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichiran002.pdf>〉

\*\*\*\*\*

・ 本 HP 別稿：宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：三浦周行博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miura001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：牧健二博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/makikenji001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：瀧川政次郎博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：「小早川欣吾先生記念メダルによせて

—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

・ 本 HP 本稿：『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa\\_toyohoseishi.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf)〉

- ・本 HP 別稿：牧英正博士著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>>
- ・本 HP 別稿：小林宏先生著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>>
- ・本HP別稿：千賀鶴太郎博士著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>>
- ・本HP別稿：戸水寛人博士著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>>
- ・本HP別稿：春木一郎博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf>>
- ・本HP別稿：原田慶吉教授略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm>>
- ・本HP別稿：船田享二博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm>>
- ・本HP別稿：田中周友博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>>
- ・本HP別稿：栗生武夫先生略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf>>
- ・本 HP 別稿：「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」  
 <[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_chuhon.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)>
- ・本 HP 別稿：「『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出  
 —『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」  
 <[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf)>
- ・本 HP 別稿：PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』  
 <[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)>
- ・本HP別稿：西本穎博士著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf>>
- ・本HP別稿：久保正幡博士著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf>>
- ・本HP別稿：井上周三教授関係資料抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf>>
- ・本HP別稿：上山安敏先生著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf>>
- ・本HP本別稿：笥克彦博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>>
- ・本HP別稿：近藤英吉博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>>

- ・本 HP 別稿：増田福太郎博士関係資料一斑  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf>〉
- ・本 HP 別稿：山崎丹照先生著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf>〉
- ・本 HP 別稿：戴炎輝博士略年譜・著作目録  
 〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai\\_Yen-hui001.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf)〉

\*\*\*\*\*

- \* 和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉
- ・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）  
 〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉  
 （註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

\*\*\*\*\*

- \* 「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」⇒爾後逐次改訂⇒（最新版：令和4（2022）年5月現在第7稿掲載）  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉  
 （註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉））に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

\*\*\*\*\*

【関連 HP】（令和 5（2022）年 7 月 17 日新設）

- ・法制史学会：〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館：〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・（追加：令和 4（2022）年 12 月 12 日）  
〈[https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202\\_01.html](https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html)〉  
「[ホーム](#)>[新着情報](#)>[ニュース](#)> 「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）」  
「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）」  
「国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、[国立国会図書館デジタルコレクション](#)をリニューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するとともに、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）  
〈[https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital\\_transmission/individuals\\_index.html](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html)〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー  
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii: 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（**【[2022] 4/18 更新】**CiNii Articles の CiNii Research への統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉
- ・IRDB(学術機関リポジトリデータベース): 〈<https://irdb.nii.ac.jp/>〉（追加：令和 5(2023)年 1 月 7 日）
- ・朝日新聞クロスサーチ（令和 4（2022）年春「[聞蔵Ⅱビジュアル](#)」を全面リニューアル）  
〈<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>〉
- ・ヨミダス歴史館  
〈<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>〉
- ・毎索（マイサク）  
〈<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>〉

\*\*\*\*\*

I 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』抄録（本書原本は縦書）

<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000002589232-00>

著者照影（撮影年月日不詳、小田輝子様御提供）（ここでは不掲載）

小早川欣吾先生の東洋法制史論集上梓によせる序（ここでは不掲載）

1996年5月9日

牧英正

〔凡例〕

- 1 本論集には、小早川欣吾先生が法学論叢及び東亜人文学報に寄稿された東洋法制史関係の論説及び書評で知り得るものを、すべて初出誌より複写して収録した。
- 2 製本の都合上、B5版に統一したため、法学論叢、東亜人文学報とも、若干縮刷を変えて複写した。
- 3 大阪市立大学名誉教授、法学博士牧英正先生に御序文を賜った。
- 4 小早川欣吾先生の御令姪小田輝子様の御高配により、巻頭に御遺影等を掲載させていただいた。
- 5 論説については、対象年代順とした。
- 6 書評については、編者の判断による収録順序とした。
- 7 論説・書評とも、原文の引用に便ならしめるため、出来る限り初出誌表紙及び奥付を収録するとともに、初出頁数を残した。
- 8 参考のため、『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版）』（平成8年2月1日刊）中の「小早川欣吾先生著作等目録稿」及び『京都帝国大学史』（京都帝国大学、昭和18年12月20日刊）中の日本法制史講座関係分を附録として収録した。これらも初出頁数を残した。
- 9 当初、解説を付けるべく、専門家の御教示を仰いだが、諸般の事情から、今回は断念せざるを得なかった。完全な校訂本の公刊とともに、将来の課題としたい。
- 10 小早川欣吾先生御自身による著作目録が存在しないため、なお完全を期し難く、遺漏あることを危惧している。御教示を賜れば幸いである。

目次

著者照影

小早川欣吾先生の東洋法制史論集上梓によせる序 ……牧英正 ……1

〔凡例〕 ……9

第1部 論説



1 支那法に於ける族刑と縁坐刑との関係について	2
2 唐朝司法制度 (1) ～ (4・完)	55
3 五代及び宋に於ける司法制度 (1) ～ (4)	261
4 明律令の我近世法に及ぼせる影響	389
5 清時代に於ける地方自治団体の牌の形式について—特に保甲制度を中心として—	453
6 清時代に於ける保甲冊の形式と其の編成について	511

## 第2部 書評

1 楊鴻烈氏著「中国法律發達史」	587
2 程樹德氏編「中国法制史」	592
3 仁井田陞氏「唐令拾遺」	600
4 仁井田陞氏「唐宋法律文書の研究」	607
5 仁井田陞教授「支那身分法史」	624
6 根本誠「上代支那法制の研究 刑事篇」	633
7 和田清「支那地方自治發達史」	643
8 V・A・リヤザノフスキー「元朝に於ける蒙古法及支那法」	650
9 H・H リューテ「日本及び支那の立法に及ぼせる欧州法の影響」	666

(参考) 書評補遺

(後掲「Ⅱ 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(自己出版、平成8年6月25日刊) 補遺」  
(9頁) 参照。)

## 「第2部 書評

10 瀧川政次郎氏『律令の研究』(『法学論叢』第26巻第6号、昭和6年12月)	
11 瀧川政次郎氏『法律史話』(『法律時報』第5巻第1号、昭和8年1月)	」

## 附録

1 小早川欣吾先生著作等目録稿	679
2 京都帝国大学史(日本法制史講座)	706
3 法学論叢巻号数対照表	719

初出一覧

編者あとがき

索引

奥付

別添 小早川欣吾先生東洋法制史論集刊行の葉 ……………1

\*\*\*\*\*

本 文

1～720 頁 (ここでは不掲載)

\*\*\*\*\*

初出一覧 (721～725 頁)

## 第 1 部 論説

- 1 支那法に於ける族刑と縁坐刑との関係について……法学論叢第 46 卷第 6 号 (宮本 (英脩) 博士還暦祝賀記念号、昭和 17 年 6 月)
- 2 唐朝司法制度 (1) ～ (4・完) ……法学論叢第 41 卷第 5 号 (昭和 14 年 11 月)、同第 41 卷第 6 号 (昭和 14 年 12 月)、同第 42 卷第 1 号 (昭和 15 年 1 月)、同第 42 卷第 2 号 (昭和 15 年 2 月)
- 3 五代及び宋に於ける司法制度 (1) ～ (4) ……法学論叢第 42 卷第 4 号 (昭和 15 年 4 月)、同第 42 卷第 6 号 (昭和 15 年 6 月)、同第 43 卷第 4 号 (昭和 15 年 10 月)、同第 44 卷第 3 号 (昭和 16 年 3 月)
- 4 明律令の我近世法に及ぼせる影響……東亜人文学報第 4 卷第 2 号 (昭和 20 年 3 月)
- 5 清時代に於ける地方自治団体の牌の形式について一特に保甲制度を中心として一……東亜人文学報第 1 卷第 2 号 (昭和 16 年 9 月)
- 6 清時代に於ける保甲冊の形式と其の編成について……東亜人文学報第 3 卷第 1 号 (昭和 18 年 3 月)

## 第 2 部 書評

- 1 楊鴻烈氏著「中国法律発達史」……法学論叢第 27 卷第 2 号 (昭和 7 年 2 月)
- 2 程樹德氏編「中国法制史」……法学論叢第 28 卷第 5 号 (昭和 7 年 11 月)
- 3 仁井田陞氏「唐令拾遺」……法学論叢第 30 卷第 1 号 (昭和 9 年 1 月)
- 4 仁井田陞氏「唐宋法律文書の研究」……法学論叢第 37 卷第 5 号 (昭和 12 年 5 月)
- 5 仁井田陞教授「支那身分法史」……法学論叢第 47 卷第 3 号 (昭和 17 年 9 月)
- 6 根本誠「上代支那法制の研究 刑事篇」……法学論叢第 41 卷第 5 号 (昭和 14 年 5 月)
- 7 和田清「支那地方自治発達史」……法学論叢第 44 卷第 3 号 (昭和 16 年 3 月)
- 8 V・A・リヤザノフスキー「元朝に於ける蒙古法及支那法」……法学論叢第 40 卷第 3 号 (昭和 14 年 3 月)
- 9 H・H リューテ「日本及び支那の立法に及ぼせる欧州法の影響」……法学論叢第 44 卷第 6 号 (昭和 16 年 6 月)

## 附録

- 1 小早川欣吾先生著作等目録稿（「小早川欣吾先生メモ（第1輯）」中の一部をも収録。）…『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿』（三訂版、都筑印書館、平成8年2月1日刊）
- 2 京都帝国大学史（日本法制史講座）…（京都帝国大学、昭和18年12月20日刊）
- 3 法学論叢巻号数対照表…前掲目録稿

## 編者あとがき

先に出した『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿』（三訂稿、平成8年2月1日刊）は、竹内の助力に依るところが大きく、実質的には兩名の共編である。同書刊行後、刊行後、多くの方々より御叱正をいただくとともに、小早川欣吾先生の御令姪に当たられる小田輝子女史（彦根市御在住）より過分の御高配を賜ったことは、誠に感激に堪えないところである。

この小田様の御厚志に応えるべく、小早川先生を記念する何かをしたいと兩名で協議したところ、この機会に、未公刊のままである小早川先生の東洋法制史関係の御著作を、複写して製本し、若干部数刊行することに意見が一致した。

周知の如く、小早川先生の御研究領域は、大きく、1 債権担保法史、2 近世民事訴訟制度、3 明治法制史、4 東洋法制史の四分野に分かたれるが、前三者については、既に巨冊が出ているものの、最後のものについては、法学論叢及び東亜人文学報に掲載されたままである。本来ならば、此学の専門家が小早川先生の御著作を校訂して公刊されることが望ましいが、現時の諸情勢を勘案すると、このことは極めて難しい。しかし、小早川先生の東洋法制史関係の御著作の全貌を見ることについては、強い要望があることもこれまた事実である（例えば、石尾芳久博士『日本古代法の研究』（法律文化社、昭和34年7月刊）296頁参照）。このため、私ども兩名は、僭越を承知で、関係著作を知り得る限り複製し、ここに取りまとめた。本書の刊行が契機となって、専門家により本格的な論集が編まれることを願ってやまない。

なお、ここで二、三お断りしておきたい。一は書題を『東洋法制史論集』としたことである。小早川先生は昭和16年4月より昭和19年6月の御逝去まで、京都帝国大学法学部で東洋法制史を講義しておられるが、ここに「東洋法制史」とは「中国法制史」のことである。したがって、あるいは『中国法制史論集』とすべきであったかも知れないが、当時の担当講義名に因んで、敢えて『東洋法制史論集』と名付けた。二は収録著作のことである。当初は論説のみをと考えていたが、一、二の識者にお聞きしたところ、「それは当然書評も含めて全て収めることが望ましいのではないか」とのことであったので、論説、書評とも把握している限りを収めた。ただし、私どもの調査にもかかわらず、なお遺漏なきを期し難い。どうか宜しく御教示賜れば幸いである。三は本の体裁についてである。本書は、経済的理由から自費出版としたため、印刷に関しては、私どもを含めた素人の手に委ねざ

るをえなかった。更に紙質の粗悪さから、特に戦時中の論文には、かなりお見苦しい箇所もあると思われる。不体裁の謗りを免れないが、御海容の程をお願いしたい。

本書刊行に際し、小田輝子女史には、前回同様今回も各般の御配慮を賜った。本書に『日本担保法史序説』（改版復刊）（法政大学出版局、昭和54年10月刊）所載以外の小早川先生の照影を掲載することができたのも、ひとえに小田様の御蔭である。遥かに感謝の意を表するものである。

序文については、小早川先生と極めてゆかりが深く、同先生の『増補近世民事訴訟制度の研究』（名著普及会、昭和63年6月刊）が刊行された際に、「復刊にあたって」を寄せられた大阪市立大学名誉教授牧英正先生より頂戴することができた。このことは、本書を出すに当たっての最大の慶びであり、御多忙を極めておられるにもかかわらず、快く私どもの無理なお願いをお聞き入れ下さって、御執筆いただけたことに対し、厚く御礼申し上げたい。加えて、牧先生の御高配により、本書には収録していないが、大変光栄なことに、小早川先生の貴重な照影を見せていただくことができた。その一は、昭和11年12月の御結婚式の時のものであり、御媒酌人の牧健二博士ご夫妻と御一緒のものである。その二は、昭和18年に京大で開催された法制史料展示会における記念写真で、牧健二博士、渡辺宗太郎博士等と写されたものである。いずれも大変貴重なものである。牧英正先生の御懇切な御配慮に深く感謝したい。

また、本書刊行全般にわたる企画構想及び序文を牧先生にお願いできるについては、東京大学名誉教授久保正幡先生、京都大学名誉教授上山安敏先生、同中澤巷一先生の一方ならぬ御厚情を忝うした。さらに、國學院大學法学部教授小林宏先生には、前掲目録稿以来格別の御指導をいただいているが、今回も親身にわたる様々な御支援を賜った。ここに、久保、上山、中澤、小林四先生の御高教に対し、深甚の謝意を表する次第である。加えて、上山安敏先生からは、右目録稿の先生の御序文よりの引用をもお許し頂いたので、ここに収録しておく。

「小早川欣吾さんについては、若くして去られた大きな存在としての法制史家であり、専門の関係で直接論文の上で接触したことはなかった。京都大学に小早川文庫があり、頭の隅に絶えずお名前があった程度であった。ところが、私にとって小早川さんの偉大さを知ったのは、同僚の牧英正氏や若い世代からの高い評価を聞かされた事がきっかけだった。それから、小早川さんについては法制史家として関心を集めるようになった。従来の中世にとどまっていた歴史学や法制史の枠を飛び出し、近世の民事訴訟法、担保法の分野を開拓した学者として時代を先取りしていたといえるだろう。戦後の彼の再評価は始まっており、法政大学出版局から『日本担保法史序説』の覆刻版が出されており、広い読者層に迎えられている。さらに遺稿も出版される動きがあると聞いている。」

本書は、私どもの力不足のため、十分な編集ができず、あるいは小早川先生の御高名を傷つけたことを惧れるが、小早川先生研究の基礎資料となることができれば幸いである。大方の忌憚なき御叱正、御示教を切にお願いする次第である。

平成8年6月1日

渋谷常磐松にて

(編者兩名・名)

索引 ……………1～6

奥付 (自己出版、製作 常磐印書館、平成 8 年 6 月 25 日刊)

別冊附録

- 1 小早川欣吾先生照影 (写真、ここでは不掲載)
- 2 第三回東西両大学対抗競技優勝記念メダル (小早川欣吾君) (京都帝国大学陸上競技部、大正 15 (1926) 年) (写真、ここでは不掲載。現在メダルそのものは京都大学大学文書館所蔵。(<http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>))
- 3 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』刊行の葉

\*\*\*\*\*

『小早川欣吾先生東洋法制史論集』刊行の葉

『小早川欣吾先生東洋法制史論集』刊行に当たり、二、三覚き書風に誌させていただくことをお許し願います。

1 小早川先生の著作についてこれまで二点気にかかっていたことがあった。一つは『明治法制史論私法之部』のことであり。もう一つは東洋法制史関係の諸論文のことである。前者は未刊に終わったとはいえ、近刊予告が出ていたこともあり、おそらくやかなりの原稿が存在したのではないかと推測される。残念ながら、これは、現在に至るまで公刊されていない。『明治法制史論公法之部』と対になっていたことから、是非とも接したいものであり、遺著公刊を願うものである。

これに対し、後者については、法学論叢及び東亜人文報掲載分は、今回、これらを一応全部本書に収めることができた。なお見落とししたものも多々あると思われるので、これに関しては、なお探求していきたいと考えているが、大方の御教示を賜れば幸いである。

ところで、牧英正先生の御序文及び本書に収録した『京都帝国大学史』によれば、京都帝国大学法学部における東洋法制史の講義は昭和 16 年 4 月から小早川助教授 (当時) が担当することになったというが、『仁井田陸博士追悼論文集第 1 卷 前近代アジアの法と社会』(勁草書房、昭和 42 年 10 月 15 日刊) の同博士略歴 (534 頁以下) を見ると、「昭和 15 年 10 月～11 月京都帝国大学法学部」において「支那法制史」の特別講義嘱託」とある (『東京大学東洋文化研究所紀要』34 (昭和 39 年 3 月) 併照)。これからすると、京大法学部における東洋法制史は、仁井田博士、小早川教授と続くわけで、これは、大変感慨深いことと言わざるを得ない。

2 本書の印刷が終わり、製本中の本年 7 月、小田輝子様のお案内で、彦根市来迎寺に行き、小早川先生の墓前にお参りをさせていただいた。同寺については、牧健二博士が「小早川教授の逝去」(『法学論叢』第 50 巻第 4 号 (昭和 19 年 4 月) 357 頁以下) で言及され

ておられる。

小田様には、今回の論集刊行に当たり格別の御高配を賜った。本書に収録させていただいた小早川先生の照影に加え、別冊附録に収めた記念メダルの写真も、小田様御愛蔵のものを提供していただいた。厚く御礼申し上げたい。

3 本書の成るについては、久保正幡先生の御配慮によるところが極めて大きい。久保先生は、かねてより小早川先生の業績を高く評価されてこられたが、かつて近隣に小早川先生の姻戚の方（追記：長谷川峻明氏（1889～1984））がおられて懇意にされ、よく小早川先生のことを話し合われたとのことである。こうしたことから、今回の論集刊行の企画についても、大きな御理解を示され、暖かい御激励をいただいた。

久保先生は、昨年、京都の同志社大学で開催された「久保先生の話聞く会」で回想を述べられるとともに、早稲田大学で開催された法制史学会東京部会においても、中田薫博士の思い出を中心に法制史学の回顧を話された。いずれ公表されると聞いている。

この他に、久保先生は、最近、ある機関紙に、「歴史と歴史小説」（同紙第 363 号、平成 7 年 11 月 1 日号）、「諸君を前に思い出すこと一若き人々のために一」（同紙第 363 号別冊、平成 8 年 5 月 1 日号）、「敬天愛人」（同）を寄稿しておられる。我が国西洋法制史学の碩学が自らのことについて語られたまことに貴重なものである。併せて御参照いただければと思う。少数であるとはいえ、今回、本書を作成することができたのも、ひとえに久保先生のお蔭である。謹んで先生に感謝するとともに、益々の御健勝をお祈りする次第である。

（平成 8（1996）年 7 月 31 日 編者誌）

## II 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺

小早川欣吾先生の著作目録については、現時点では、『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録（二訂版）—内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録（初稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第八輯）—』（平成 19（2007）年 1 月 1 日刊）中の七訂稿が最新のものであるが、それ以前に、六訂稿を収載した『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録（新版）〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8 年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第一輯）—』（平成 15（2003）年 9 月 1 日刊）があり、そこに、附録として、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8 年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）」を収録した。以下、「六訂稿はしがき」及び収録内容を記載しておく。

なお、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』刊行翌年の平成 9（1997）年 1 月 2 日、光栄にも小早川欣吾先生御令室の長島田鶴子様（1911～2000）に拝眉の機会を得たが、それについては、別に「小早川欣吾先生令夫人を訪う」なる一文を誌した。御令室様はその後平成 12（2000）年 1 月 25 日に長逝された。ただただ御冥福をお祈りするばかりである。

六訂稿はしがき

平成 10 年 3 月 20 日に五訂稿を出してから、五年余りが過ぎた。早く改訂をと考えていたが、なかなか取りかかれず、今般、漸くその後の調べを基に補正した六訂稿を作成した。これとて未だ不十分なものであり、今後も更に補訂に努めたいと考えているので、よろしく御示教の程お願い申し上げる次第である。

五訂稿までは、小早川先生の御令姪の小田輝子様、牧英正先生はじめ多くの先生方に御指導をいただいていたが、今回は、加えて、『歴史学事典・5・歴史家とその作品』（弘文堂、平成 9 年 10 月 15 日刊）に「小早川欣吾」を執筆された大平祐一先生からも貴重な御教示を賜った。ここに誌して深甚の謝意を表す。

また、小田輝子様には、四訂稿及び五訂稿にお寄せいただいた御玉稿の再掲をお願いいたしたところ、御多忙を極めておられるにもかかわらず、わざわざ御加筆の上、お許し下さった。謹んで厚く御礼申し上げたい。小田様には、前に小早川先生の山口高等学校在学中の貴重な御遺品等をもいただいているが、これらも、いずれ何らかの形で紹介の機会を持つてを願っている。

なお、以前刊行した『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成 8 年 6 月 25 日刊）に、一、二漏らしたものがあり、多年気にかかっていたが、本六訂稿に「補遺（第一輯）」の形で取りあえず収録した。上記論集は極少数の限定発行のため際再刷が要望されているが、その時には、これらも改めて再録したいと考えている。

平成 15（2003）年 9 月 1 日

武州荏田にて

編者謹誌

\*\*\*\*\*

『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（自己出版、平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）」（67～84 頁）収録論稿

「第二部 書評

(10) 瀧川政次郎氏『律令の研究』（『法学論叢』第 26 巻第 6 号、昭和 6 年 12 月刊）  
……………68

(11) 瀧川政次郎氏『法律史話』（『法律時報』第 5 巻第 1 号、昭和 8 年 1 月刊）  
……………78

」

Ⅲ CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）の件（平成 28 年 8 月 6 日追加）

〈<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I027518080-00>〉

本 CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著

作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）は、平成 15（2003）年 9 月以来随時刊行してきた「ローマ法・法制史学者著作目録選」の第十二輯に当たる。

今次『目録選第十二輯』は、諸般の事情から、従前（第一～第九輯、第十一輯）のような冊子版を作成せず、第十輯と同じく CD 版のみを作成することとした次第である。ただ、いずれは冊子版を作成することを考えている。

本第十二輯は、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）の増補版を「小早川欣吾先生略年譜・著作目録」の最新稿たる八訂稿とともに、CD 版として作成したものである。

\*\*\*\*\*

#### 〔CD 収録ファイル一覧〕

（当該 CD には下記ファイル-1/5、2/5、3/5、4/5、5/5 の 5 ファイルが存在する。）

・ファイル-1/5 ⇒CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』ファイル一覧（本ファイル）

・ファイル-2/5 ⇒CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）本体

（「はしがき」、「小早川欣吾先生遺影」、「『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版） 併載：小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』概要」、「附録」、「あとがき」、「奥付」等）

・ファイル-3/5 ⇒「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（八訂稿）」（平成 28（2016）年 8 月 1 日作成）

（CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集（増補版）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十二輯）—』（平成 28（2016）年 8 月 1 日刊）所載）

・ファイル-4/5 ⇒『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）PDF 版

・ファイル-5/5 ⇒『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録（新版）〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第一輯）—』（平成 15（2003）年 9 月 1 日刊）中「小早川欣吾先生略年譜・著作目録（六訂稿）」及び『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8（1996）年 6 月 25 日刊）補遺（第一輯）」PDF 版

#### IV 趙晶氏「論小早川欣吾的東洋法制史研究」の件（令和 3 年 11 月 9 日追加）

本稿再訂稿作成以後に、趙晶氏（（当時）中国政法大学法律古籍整理研究所副教授）「論小早川欣吾的東洋法制史研究」『法制史研究』第 34 期（2018（平成 30）年 12 月刊）177



～191 頁が公表された。小早川欣吾先生の東洋法制史研究を初めて本格的に論じられた貴重な御論考である。

〈[http://flgj.cupl.edu.cn/\\_local/9/68/58/ECF3D4F427BD6FA6CEE5B7967\\_E996F37F\\_DA888.pdf#search=%27%E5%B0%8F%E6%97%A9%E5%B7%9D%E6%AC%A3%E5%90%BE++E8%B6%99%E6%99%B6%27](http://flgj.cupl.edu.cn/_local/9/68/58/ECF3D4F427BD6FA6CEE5B7967_E996F37F_DA888.pdf#search=%27%E5%B0%8F%E6%97%A9%E5%B7%9D%E6%AC%A3%E5%90%BE++E8%B6%99%E6%99%B6%27)〉

(趙晶「法制人物 論小早川欣吾的東洋法制史研究(含中英摘要) 177～191 頁」

〈[http://proj1.sinica.edu.tw/~leghist/pages/data\\_1\\_12.html](http://proj1.sinica.edu.tw/~leghist/pages/data_1_12.html)〉

〈<https://www2.ihp.sinica.edu.tw/publish4.php?TM=5&M=4&C=61>〉)

〈<http://flgj.cupl.edu.cn/info/1031/1012.htm>〉

#### V 『支那社会経済大辞典』第1巻掲載の小早川欣吾先生執筆項目の件

(令和5年7月17日追加)

令和5(2023)年7月7日、西英昭先生から、山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』第1巻(ア一カ、奥付では「全八巻の内 第一巻」とある。大雅堂、昭和19(1944)年12月15日刊。『支那社会経済大辞典』は終戦により第1巻のみ刊行されて中断。〈<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000000857011-00>〉)中に小早川欣吾先生執筆の67項目が存在するという貴重な御示教をいただけ、本稿に追加することができた。今頃小早川欣吾先生の公刊物に接することができるとは思ってもしなかったもので、ただただ感激いたしたところである。西先生の格別の御厚情に深く感謝申し上げます次第です。

(参考)小早川欣吾先生関連年譜抄

昭和19(1944)年5月13日 京都帝国大学教授・人文科学研究所員

同 年同 日 法学部東洋法制史の教授担当

この頃 満洲国に出張

同 年6月15日 逝去

昭和20(1945)年

・明律令の我近世法に及ぼせる影響 『東亜人文学報』第4巻第2号(昭和20年3月30日刊)

・辞典執筆67項目 山口経済専門学校東亜経済研究会編『支那社会経済大辞典』第1巻(ア一カ、奥付では「全八巻の内 第一巻」とある。大雅堂、昭和19(1944)年12月15日刊。『支那社会経済大辞典』は終戦により第1巻のみ刊行されて中断。)

(本辞典及び小早川先生執筆項目については、令和5(2023)年7月7日西英昭先生の御示教に与った。厚く御礼申し上げます。)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1275895/1/1>〉 (令和5(2023)年7月17日追加)

(参考)

・「敬告」(『支那社会経済大辞典』刊行の件)『山口商学雑誌』第12巻第6号(昭和16(1941))

年 12 月 26 日刊) 78 頁 (51 齣)

[〈https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3565315/1/1〉](https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3565315/1/1)

・木部和昭「山口高等商業学校の東アジア教育・研究と東亜経済研究所」『東亜経済研究』第 67 巻第 2 号平成 21 (2009) 年 1 月 31 日刊 47～61 頁中 59 頁

[〈https://researchmap.jp/read0185187〉](https://researchmap.jp/read0185187)

[〈https://core.ac.uk/download/35425565.pdf〉](https://core.ac.uk/download/35425565.pdf)

[〈https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3565315/1/51〉](https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3565315/1/51)

(執筆項目)

(註記) 項目の後に (姓・姓) とあるのはその項目が「共著」であることを示している。ただ、これは、正式には「共著」ではなく、「凡例」中の「解説の程度・形式及び方法 九」(4 頁)にあるとおり、被った項目を編纂員が適宜調整したもののようである。何もついていないものは小早川先生単著。なお、執筆者(姓名等)表示については「凡例」中の「執筆者の表示」(4 頁)によれば最終第 8 巻にまとめて表示の予定であったようで、第 1 巻では姓のみ(同姓者は名の最初字まで)しか記載されていない。

(67 項目) (共著者推定: 青木⇒不明、白尾⇒不明、曾我部⇒曾我部静雄、鈴木⇒鈴木俊か?、仁井田⇒仁井田陞)

「亞」1 頁、「哀矜(アイキン)」1 頁、「悪逆」7 頁、「悪疾」7 頁、「悪少」7 頁、「幹脱(アツダツ)」(小早川・青木)14 頁、「案驗」28 頁、「按察使」29 頁、「案租」31 頁、「案沓(アントウ)」35 頁、「案問(アンモン)」38 頁、「違礙(イガイ)」43 頁、「遺囑」56 頁、「已成盜(イセイトウ)」57 頁、「一吏」61 頁、「逸」62 頁、「意定代理」67 頁、「以盜論」67 頁、「違戻(イレイ)」75 頁、「蔭(イン)」(白尾・小早川)78 頁、「淫佚(インイツ)」79 頁、「員外郎(インガイロウ)」79 頁、「蔭贖(インシヨク)」(白尾・小早川)86 頁、「衛禁」125 頁、「營寨」127 頁、「驛傳」(曾我部・小早川)143 頁、「淹延(エンエン)」155 頁、「閹割火者(エンカツカシャ)」(小早川・鈴木)157 頁、「掩捕(エンポ)」180 頁、「枷(カ)」219 頁、「嫁(カ)」219 頁、「醢(カイ)」224 頁、「階衙(カイカン)」234 頁、「械擊(カイゲキ)」241 頁、「會赦猶流(カイシャユウリュウ)」257 頁、「會集」257 頁、「解審」260 頁、「戒石銘」264 頁、「快便」278 頁、「恢辦(カイベン)」278 頁、「會問」282 頁、「解由(カイユ)」(小早川・鈴木)283 頁、「科役(カエキ)」288 頁、「課役(カエキ)」288 頁、「格殺勿論(カクサツロンズルナカレ)」(仁井田・小早川)308 頁、「隔問」325 頁、「訛言(カゲン)」329 頁、「下殤(カショウ)」343 頁、「加杖」344 頁、「家生軀口(カセイクコウ)」348 頁、「榎楚(カソ)」351 頁、「窩藏(カゾウ)」352 頁、「瞎目(カツモク)」366 頁、「課程」367 頁、「家督」372 頁、「科敷(カフ)」379 頁、「加服」381 頁、「勘會(カンカイ)」419 頁、「官監戸」423 頁、「完議」425 頁、「官禁」429 頁、「漢刑」431 頁、「官刑」431 頁、「檻車(カンシャ)」447 頁、「官稱」453 頁、「園扉(カンピ)」494 頁、「贖濫(ガンラン)」502 頁(67 項目)

(了)